

平成 27 年度 海外市場探究成果報告書

『ベトナムの Wi-Fi 事情からみる経済状況と今後の見込み』

所属：環境システム工学課程

学籍番号：12106888

氏名：秦 裕弥

- ・実務訓練期間：平成 27 年 9 月 4 日～平成 28 年 2 月 21 日
- ・実務訓練先：ベトナム社会主義共和国 ハノイ
ハノイ工科大学

1.はじめに

ベトナムは、東南アジアのインドシナ半島東部に位置する社会主義共和制国家である。首都はハノイ。人口は約 9,250 万人 (2014 年, 国連人口基金推計)。近年、ベトナムは経済成長を遂げつつある国である。他のアジア諸国と比較すると、2014 年のベトナムの一人あたりの名目国民総生産 (GDP) は 2051 米ドル (2015 年, IMF) と低い。そのため、ベトナムは今後の成長期待が大きい国と思われる。

私は、ベトナムへの実務訓練が決まり、事前にベトナムについて調べると、ベトナムはアジア諸国で最大の Wi-Fi 大国であり、日本よりも Wi-Fi の普及率が高いことを知りました。そこで、今回、私は、ベトナムにおける Wi-Fi 普及の背景や Wi-Fi 事情と経済状況の関わりを調査し、ベトナムが今後どのように経済成長していくかを考えた。

2.ベトナムにおける経済状況と Wi-Fi 事情

2014 年のベトナムの一人あたりの名目国民総生産 (GDP) は 2051 米ドル (2015 年, IMF) と、ちょうど高度成長期中頃の 1960 年代後半頃の日本の一人当たり GDP と同等である。2014 年の経済成長率は、5.98% (2015 年, ベトナム統計総局)。2014 年の年平均物価上昇率は、4.09% (2015 年, ベトナム統計総局)。これらのことから、ベトナムは今現在、経済成長期にいたのである。また、街を見ると、背の高いビルが多く立ち並び街全体に活気があるように思われる。しかし、ベトナムの平均年収は日本円にして約 30 万円と、アジア諸国の中では比較的低い。

一方、ベトナムにおける Wi-Fi 事情は、アジア最大の Wi-Fi 大国と言われるほど Wi-Fi が町の至る所で、無料で利用することができる。実際に、ハノイのノイバイ空港内や大型ショッピングセンター内では、Wi-Fi を利用することができる。また、町を歩いていると看板に「Wi-Fi」と書かれたお洒落なカフェをよく見かける。カフェでは、飲み物を頼むとレシートに Wi-Fi のパスワードが書いてあり、カフェ内で Wi-Fi を利用することができる (図 1)。カフェの店内ではパソコンやタブレット、スマートフォンなどの機器を用いて Wi-Fi を利用している人々の光景を目にすることができる。飲食店に入れば、メニューや店内の壁、テーブルに Wi-Fi のパスワードが書かれており気軽に Wi-Fi を利用することができる (図 2)。さらには、パソコンを利用したオンラインゲームを行うためのお店も良く見かける (図 3)。当然のようにホテルでも Wi-Fi の利用が可能である。

ベトナム航空では、2015年5月から、使用料を支払うことで機内でのWi-Fiの利用が可能となるボーイング787とエアバスA350の機体を導入した。これにより、上空でインターネットを利用することが可能となった。

ベトナム国内のモバイル事情は、SIMカードを購入し、必要な分だけのプリペイドカードを購入し、お金をチャージして通話やインターネットを利用するといった方式になっている。現在、ベトナム国内は、3G回線でインターネットを利用することができ、データ通信料は、データ使用量無制限で一カ月7,000VNDと日本円で約350円と比較的安く利用することができる。しかし、データの通信速度は遅いため、現地のベトナム人は、Wi-Fiの利用が可能な場所ではWi-Fiを利用する。

このように、ベトナムは、Wi-Fi利用への取り組みが盛んである国であると共に、Wi-Fiがベトナムの人々の生活には欠かせないものとなっていることがわかる。



図1. レシートに書かれたWi-Fiのパスワード





図 2. メニューや店内の壁、テーブルに書かれた Wi-Fi のパスワード



図 3. オンラインゲームのお店

3. ベトナムと日本の Wi-Fi 事情の違い

ここまで、ベトナムの Wi-Fi 事情について述べてきたが、一方で、日本の Wi-Fi 事情についてはどうなのか。日本は、2014 年の一人あたりの名目国民総生産（GDP）で見れば 36,222 米ドル（2015 年, IMF）と、ベトナムと比べ経済的に豊かである国と言える。しかし、そんな日本でさえ、Wi-Fi はスマートフォンやタブレットの普及に伴って、2012 年頃になってようやく都市部で普及し始めた。日本で Wi-Fi が普及しない原因としては、日本国内の大半の人々がキャリアと契約しているため、キャリア事情によって Wi-Fi が普及されていないことや、インターネット利用時のセキュリティの問題などが考えられる。日本のカフェなどで Wi-Fi を利用する場合、事前登録が必要であり、犯罪抑制のための本人認証をしっかりと行う必要がある。そのため、Wi-Fi を提供するためにはセキュリティに重視したシステムの導入などによりコストが掛かってしまう。一方で、ベトナムでは、こういった取り締まりには厳しくないため、登録などが必要でない Wi-Fi を安価で提供することが可能となり、広く普及している。

ベトナムでは、Wi-Fi が広く普及されているがインフラ整備が追い付かないためか、ベトナムでは図 4 のような電線とインターネット回線が複雑に絡み合っている電信柱などを良く見かける。これ

も、日本では見かけない風景である。

日本での Wi-Fi 利用は安全に利用することが可能だが、事前登録などが必要といった手間やコストが掛かってしまうことがある。一方で、ベトナムでは事前登録なしに Wi-Fi を気軽に利用することができるが、ハッキングなどの危険性が比較的高い。このように、日本とベトナムでは、それぞれの利点、欠点がある。

日本では、2020 年の東京オリンピックまでに外国人観光客にも利用しやすいインターネット環境や Wi-Fi 環境の整備が必要になってくると考える。



図 4.ベトナムの電信柱

4.まとめ

このようにベトナムでは、街中でだれもが気軽に Wi-Fi を利用し、インターネットを利用することが可能な国である。そのため、海外からの観光客も手持ちのスマートフォンやタブレットで現地の Wi-Fi を利用することで情報収集や道検索などが可能となり、観光の手助けにもなることから、非常に便利である。また、日本では、オフィスだけでなく様々な場所で仕事をするという意味で用いられる「ノマド」という言葉が流行っているが、広く Wi-Fi が普及しているベトナムでは、このノマド人口が日本と比べて多い。これらのことから、ベトナムでは、今後、観光関係や情報技術 (IT) 関係を中心に経済が発展していくのではないかと私は考える。しかし、上記の図 4 のような電線とインターネット回線が複雑に絡み合ったものは非常に危険であるため、今後のインフラ整備が必要不可欠になってくるのではないかと考える。

地元の日本語情報誌によると、ベトナムでは、情報技術 (IT) 企業に力を入れており、日系企業のベトナム進出も目立ってきているとの記事があった。そんな中、重要なのはベトナム国内での IT 関連の人材育成となる。3~12 歳の子を持つ親 500 人にアンケートをとったデータを見てみると子供に IT の勉強に力を入れてほしいと言う親は、全体の 38%を占めていた。そのため、今後は、やはり IT 分野を中心にベトナムは発展していくのではないかと考えられる。